

秋田県埋蔵文化財センター年報2

昭和58年度

1984. 3

遺 跡 名：土井遺跡	所 在 地：山本郡八森町字土井29番地
事 業 名：山村基幹農道整備事業	事業関係機関：秋田県農政部山本農林事務所
調査期間：昭和58年 8 月 8 日～ 9 月10日	調査面積：975㎡
担 当 者：桜 田 隆	時 期：旧石器時代・平安時代

海岸段丘上に位置する遺跡で、旧石器 1 点の他、平安時代の竪穴住居跡 6 棟他を検出した。3 棟の竪穴住居跡には階段付張り出し出入口がある。竪穴住居跡内にレンズ状に堆積する火山灰は白頭山・苫小牧火山灰と鑑定された。

○上記表を 9 ページにはりつけてください。

秋田県埋蔵文化財センター年報2 正誤表

頁	行	誤	正
序	8	八森町の土井遺跡	(削 除)
巻頭写真裏	6	弓形の部分は	弓張の部分
1	7	白長根館Ⅱ遺跡	白長根館Ⅱ遺跡
1	29	土井遺跡	土井遺跡
1	29	S.58.8.1～S.58.9.10	S.58.8.8～S.58.9.10
1	29	縄文時代	旧石器時代
1	29	山村基幹道	山村基幹農道
2	4	S.58.11.7～S.58.11.16	S.58.11.7～S.58.11.16
3	地図中	(15、16の北側の25)	(削 除)
3	地図中	26	27
3	地図中	27	26
6	5	沢筋に面した斜面	沢筋に面した斜面
7	13	旧石器時代	旧石器時代
7	27	甕壺	甕・壺
9	3	昭和58年 9 月18日	昭和58年 9 月12日～10月19日
9	3	8,500㎡	8,500㎡
9	24	弘田柵跡学術調査	弘田柵跡学術調査
9	24	秋田県弘田柵跡調査事務所	弘田柵跡調査事務所
17	17	資料取察	資料視察
17	30	林兼作	林謙作
17	31	弘田柵跡	弘田柵跡

序

昭和50年代に入り、秋田県内でも東北縦貫自動車道建設や、国営能代開拓建設事業など大規模な開発事業が始められました。これらの大規模な開発事業は、同時に多くの埋蔵文化財の保護、調査を必要とすることになり、そうした目的をもって当埋蔵文化財センターが昭和56年10月に開設されました。

開設後2年目の今年度は、東北縦貫自動車道鹿角市、小坂町内の遺跡の発掘調査の完了、国営能代開拓建設事業関連では米代川南岸の能代市浅内地区遺跡発掘調査、また河辺町の臨空港七曲工業団地造成関連の遺跡発掘調査等の大規模な調査が実施されました。このような大規模な事業に伴う調査の他に、市町村主体事業に係る遺跡の調査では五城目町の中山遺跡、八森町の土井遺跡、若美町の横長根遺跡などが調査され、多大の成果を挙げることができました。

また、昨年度にひきつづいて当埋蔵文化財センターを会場として実施された研修会には、市町村教育委員会から多数の参加を仰ぎ、埋蔵文化財の保護思想普及の面でも亢進をはかることができました。

このように、当埋蔵文化財センターが開設されてからの2年間に、その設置の目的である埋蔵文化財の保護、調査は、当埋蔵文化財センターを基地として県教育委員会と市町村教育委員会とが連携を深めながら目的達成にむけて進んで来たと言えます。今後、埋蔵文化財の調査、保護思想普及とも一層この軌跡を強めつつ押し進めてゆくべきものと確信するものであります。

本書第2号を上梓するにあたり、御援助いただいた関係各位、各市町村教育委員会に厚く感謝の意を表するとともに、なお一層の御協力を賜わるべく御願ひ申し上げる次第でございます。

昭和59年 3 月

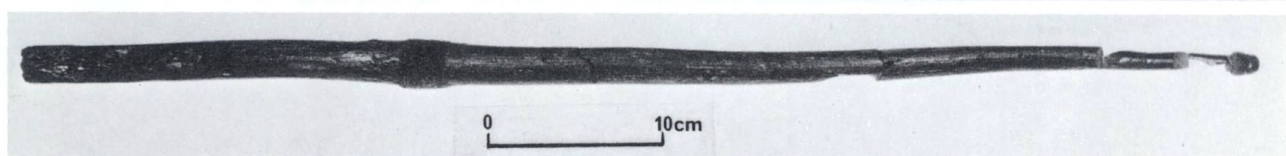
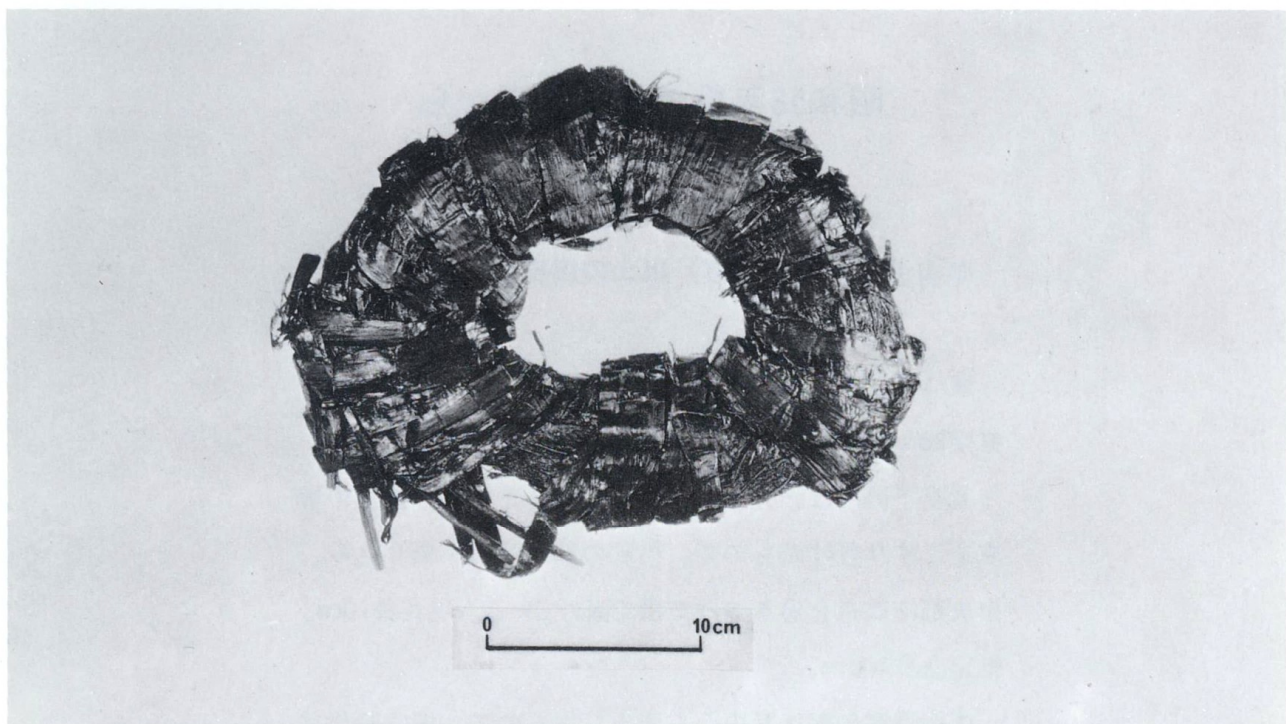
秋田県埋蔵文化財センター

所長 佐藤良太郎

目 次

序

1. 昭和58年度事業内容.....	1
(1) 昭和58年度県内調査遺跡一覧	
(2) 調査概要	
(3) 研修事業	
2. 遺物保存処理施設とその工程.....	13
(1) 鉄器保存処理	
(2) 木器保存処理	
(3) 土層の転写	
3. センター日誌抄.....	17



昭和58年度の発掘調査から

中山遺跡（五城目町）出土の樹皮製品と漆塗弓

枝についたままの杉の葉を幅2.6cm程の樹皮で巻き束ね、直径30cm程のドーナツ状にしている（写真上）。

写真下の弓は、丸木弓に黒漆を塗りさらに赤褐色の粉末をこすり付けたもので、弓脛の部分は溝を掘り込み、中央部には糸を巻きつけて漆で固めている。現存長70cm、推定全長100cm。

中山遺跡の泥炭層中から出土したもので、縄文時代後期末～晩期初頭のものである。

大岱Ⅱ遺跡（小坂町）検出の円形組石

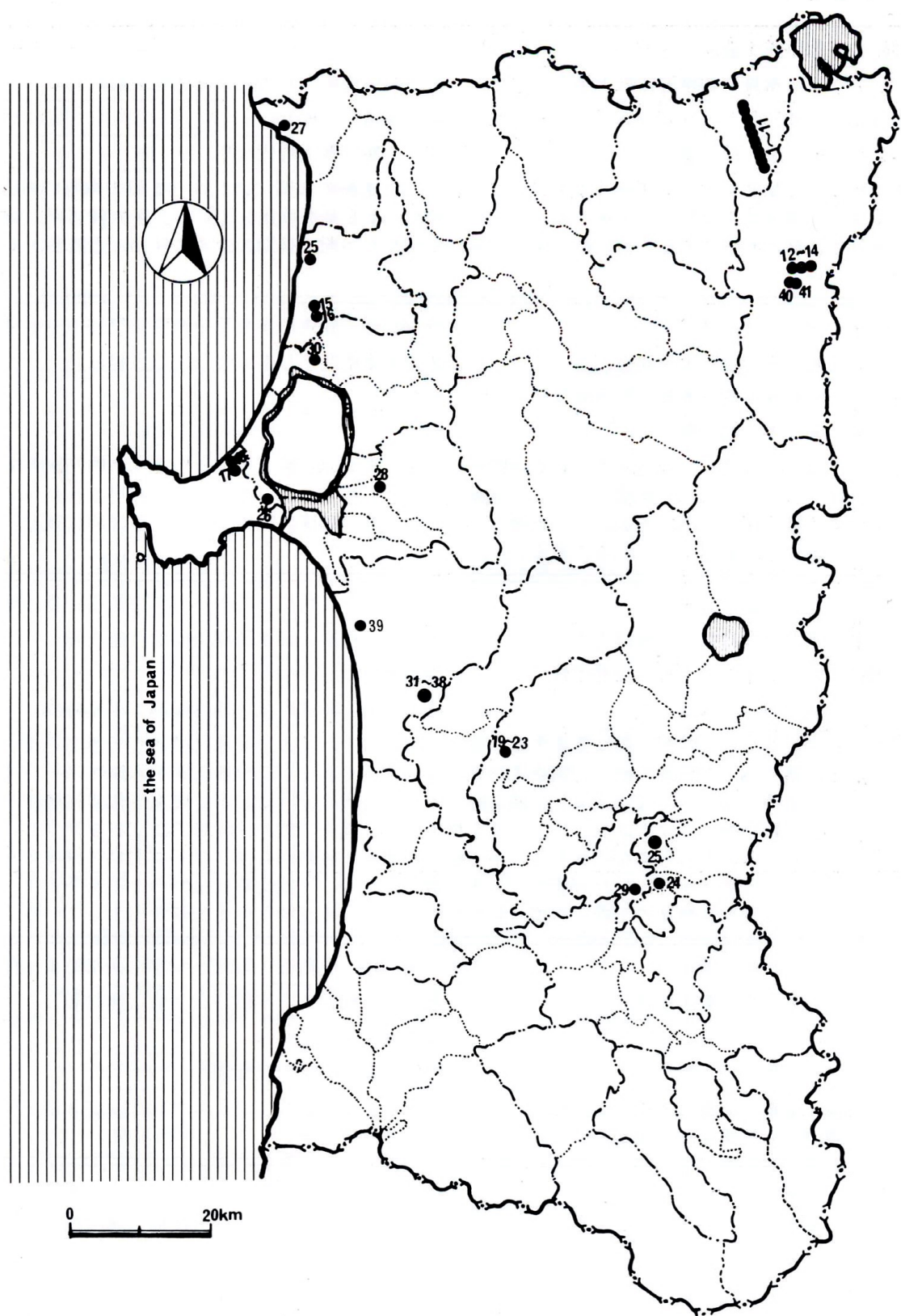
配石群の中の1基、径20～50cm程の河原石を20数個円形に組み合わせたもので、直径120cmを測る。組石の下部には深さ80cm程の土壌がある。おそらく、墓として構築されたものである。小坂川を挟んで大岱Ⅱ遺跡の対岸には、同じような組石群の発見された杉沢遺跡がある。

1. 昭和58年度事業内容

(1) 昭和58年度 県内調査遺跡一覧

番号	遺 跡 名	調 査 期 間	所 在 地	面 積	時 代	原 因	調 査 主 体
1	館平館Ⅰ遺跡	S58.5.9 ～S58.6.21	小坂町	2,800㎡	縄文時代	東北縦貫自動車道 建設工事	秋田県 教育委員会
2	館平館Ⅱ遺跡	S58.6.8 ～S58.6.30	小坂町	1,963㎡	縄文時代 明治時代	"	"
3	白長根館Ⅰ遺跡	S57.7.1 ～S58.10.4	小坂町	2,916㎡	縄文時代 平安時代	"	"
4	白長根館Ⅱ遺跡	S58.7.1 ～S58.9.30	小坂町	226㎡	縄文時代	"	"
5	丑森遺跡	S58.9.20 ～S58.10.29	小坂町	3,200㎡	縄文時代 平安時代	"	"
6	道合Ⅰ遺跡	S58.7.1 ～S58.7.30	小坂町	1,080㎡	縄文時代	"	"
7	道合Ⅱ遺跡	S58.7.26 ～S58.8.31	小坂町	1,158㎡	縄文時代	"	"
8	大岱Ⅱ遺跡	S58.5.16 ～S58.9.7	小坂町	4,994㎡	縄文時代	"	"
9	大岱Ⅲ遺跡	S58.7.4 ～S58.10.29	小坂町	7,838㎡	縄文時代 弥生時代	"	"
10	大岱Ⅳ遺跡	S58.5.16 ～S58.6.22	小坂町	925㎡	縄文時代	"	"
11	円川原遺跡	S58.9.5 ～S58.9.22	小坂町	1,069㎡	縄文時代	"	"
12	案内Ⅳ遺跡	S58.6.7 ～S58.8.19	鹿角市	2,100㎡	縄文時代 平安時代	田山・花輪線 バイパス工事	"
13	案内Ⅴ遺跡	S58.4.25 ～S58.6.3	鹿角市	900㎡	縄文時代	"	"
14	案内Ⅵ遺跡	S58.5.6～S58.7.21 S58.8.18～S58.9.30	鹿角市	5,200㎡	縄文時代	"	"
15	此掛沢Ⅱ遺跡	S58.8.29 ～S58.11.14	能代市	1,682㎡	旧石器時代 縄文時代 平安時代	国営能代開拓建設	"
16	上の山Ⅱ遺跡	S58.10.13 ～S58.12.3	能代市	2,645㎡	平安時代	"	"
17	三十刈Ⅰ遺跡	S58.6.1 ～S58.8.31	男鹿市	1,335㎡	平安時代	県道バイパス工事	"
18	三十刈Ⅱ遺跡	S58.6.1 ～S58.8.31	男鹿市	2,733㎡	縄文時代 弥生時代 平安時代	"	"
19	風無台Ⅰ遺跡	S58.7.6 ～S58.9.21	河辺町	8,200㎡	弥生時代	臨空港七曲工業 団地造成	"
20	風無台Ⅱ遺跡	S58.10.19 ～S58.11.15	河辺町	7,000㎡	旧石器時代 縄文時代	"	"
21	風無台Ⅴ遺跡	S58.8.29 ～S58.9.5	河辺町	850㎡	縄文時代	"	"
22	餅田沢Ⅰ遺跡	S58.9.21 ～S58.10.19	河辺町	6,000㎡	弥生時代	"	"
23	餅田沢Ⅱ遺跡	S58.9.12 ～S58.10.19	河辺町	8,500㎡	縄文時代	"	"
24	石名館遺跡	S58.2.21～S58.2.28 S58.9.16～S58.10.30	六郷町	700㎡	縄文時代	水利事業 排水路工事	"
25	払田柵跡	S58.4.4 ～S58.11.4	仙北町	2,018㎡	平安時代	学術調査	"
26	土井遺跡跡	S58.8.1 ～S58.9.10	八森町	975㎡	縄文時代 平安時代	山村基幹道道 整備事業	"

番号	遺 跡 名	調 査 期 間	所 在 地	面 積	時 代	原 因	調 査 主 体
27	横長根 A 遺跡	S58.3.22 ～ S58.4.13	若 美 町	920㎡	弥 生 時 代	県住宅供給公社 宅地造成	若美町 教育委員会
28	中 山 遺 跡	S58.6.6 ～ S58.7.30	五城目町	672㎡	縄 文 時 代	範 囲 確 認 調 査	五城目町 教育委員会
29	四十二館遺跡	S58.5.10～S58.5.17 S58.11.7～S58.11.16	大 曲 市	1,146㎡	中 世	学 術 調 査	大曲市 教育委員会
30	家ノ上遺跡	S58.9.1 ～ S58.9.5	八 竜 町	60㎡	縄 文 時 代 弥 生 時 代 平 安 時 代	大曲地区 地滑り対策工事	八竜町 教育委員会
31	坂ノ上 E 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	5,000㎡	縄 文 時 代	臨空港 新都市開発事業	秋田市 教育委員会
32	湯ノ沢 A 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	3,000㎡	縄 文 時 代 弥 生 時 代	"	"
33	湯ノ沢 C 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	4,100㎡	縄 文 時 代	"	"
34	湯ノ沢 E 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	1,920㎡	縄 文 時 代	"	"
35	湯ノ沢 F 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	1,300㎡	平 安 時 代	"	"
36	湯ノ沢 G 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市		縄 文 時 代	"	"
37	湯ノ沢 H 遺跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	720㎡	縄 交 時 代	"	"
38	野 形 遺 跡	S58.4.1 ～ S58.11.30	秋 田 市	980㎡	平 安 時 代	"	"
39	秋 田 城 跡	S58.4.12 ～ S58.11.12	秋 田 市	1,998㎡	平 安 時 代	学 術 調 査	"
40	花 輪 館 址	S58.5.16 ～ S58.7.13	鹿 角 市	1,000㎡	中 ～ 近 世	公 園 整 備 事 業 試掘調査	鹿角市 教育委員会
41	下 沢 田 遺 跡	S58.6.20 ～ S58.8.10	鹿 角 市	600㎡	平 安 時 代	花輪サービスエリア 取付道路	"



昭和58年度県内調査遺跡地図

※ 地図中番号は一覧表番号と対応

(2) 調査概要

遺 跡 名：館平館Ⅰ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字館平12－1番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年5月9日～6月21日	調査面積：2,800㎡
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代後期

小坂川右岸の標高約 218mの狭小な台地上に位置する。遺跡の南側には、はりま館・横館の両遺跡が位置する。遺跡からは竪穴住居跡1棟、フラスコ状ピット1基を検出している。竪穴住居跡は縄文時代後期の時期のものである。他に縄文時代前期の土器片と前期、後期の土器に伴出する石器を若干量出土している。

遺 跡 名：館平館Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字館平12－1番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年6月8日～6月30日	調査面積：1,963㎡
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代

館平館Ⅰ遺跡に近接し、標高はやや高く 225mを測る。調査の対象区域にはかなりの凹凸があったが、これはトレンチを入れた結果、トロコ線路と粘土塊が検出され、明治時代に利用されたレンガ製造のための粘土採掘場所であることが判明した。それ以外の遺構の検出はなく、縄文時代後期、弥生時代の土器片を少量出土したのみである。

遺 跡 名：白長根館Ⅰ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字白長根20番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年7月1日～10月4日	調査面積：2,916㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代中期～後期、平安時代

小坂川右岸に連なる丘陵縁近部に位置する。遺跡の南側はそのまま丘陵地に接続して標高を増し、北側は急激に落ち込んで沢地へ続く。調査区の標高は 216mを測るが、全体に西から東へ向ってゆるく傾斜する。遺構、遺物の時代は大別して縄文時代と平安時代に分けられる。縄文時代の住居跡7棟、平安時代の住居跡10棟、フラスコ状ピット17基を検出した。縄文時代の住居跡では立石を伴うもの、出入口を示すピットのあるものなどがある。平安時代の竪穴住居跡からは、フイゴ羽口・鉄滓等が出土し、製鉄もしくは鍛冶が行われた可能性がある。遺物としては、縄文時代後期の土器を多く出土し、その他、前期～晩期の各時期の工器・石器、弥生時代の土器、平安時代の土師器が出土している。

遺 跡 名：白長根館Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字白長根33番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年7月1日～9月30日	調査面積：226㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代後期

白長根館Ⅰ遺跡の北側に隣接する。標高は 210mを測る。土壇2基、フラスコ状ピット3基を検出した。土壇内からは縄文時代後期の土器片を若干量出土させている。

遺 跡 名：丑森遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字丑森5番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和58年9月20日～10月29日	調査面積：3,200㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代、平安時代

小坂川右岸の丘陵上に位置し、南側は松木沢によって画されている。標高は 216mを測る。検出された遺構は縄文時代後期の住居跡1棟、土壇18基、平安時代の住居跡1棟である。遺物は極めて少ないが、縄文時代後期の土器、石器、弥生時代の土器、平安時代の土師器、須恵器が出土している。

遺 跡 名：道合Ⅰ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字道合4、5番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和58年7月1日～7月30日	調査面積：1,080㎡
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代後期

、小坂川右岸の丘陵上に位置する。標高は約 240m。遺跡下には堀内川が流れている。後背地は起伏の激しい丘陵である。縄文時代中期中葉の住居跡1棟、フラスコ状ピット1基を検出している。遺物としては縄文時代中期・後期の土器片、石器を出土しており、鐸形土製品も1個体出土している。

遺 跡 名：道合Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字道合16番地
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年7月26日～8月31日	調査面積：1,158㎡
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代

小坂川支流の堀内川右岸に位置する。標高は 198mを測る。調査区の中央は開析されて小さな谷地形を呈し、遺物はこの谷地形の凹地から流れ込んだ状態で検出された。縄文時代後期の土器片、三脚石器などが出土している。

遺 跡 名：大岱Ⅱ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字大岱8番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査機関：昭和58年5月16日～9月7日	調査面積：4,994㎡
担 当 者：小 林 克	時 期：縄文時代後期

昨年度調査された大岱Ⅰ遺跡の西側、標高 250m前後の台地上に位置する。大岱Ⅰ～Ⅳ遺跡、円川原遺跡は同一の丘陵上に位置するが、この丘陵は小坂川の右岸に位置し、南側を堀内川によって画されている。遺跡の標高は大岱Ⅰ遺跡よりも20m程高い 250m前後を測る。遺跡の立地する台地は南北に長く、東西に狭い。検出された遺構は縄文時代後期のフラスコ状ピット14基と配石1基である。配石は河原石を数個組ませた組石数基からなる。組石の中には、円形に組んだものがあり、これにはその下部に深さ1m程の土壌が検出された。出土した遺物は極く少量であるが、縄文時代後期のものを主体とする。

遺 跡 名：大岱Ⅲ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字大岱45番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和58年7月4日～10月29日	調査面積：7,838㎡
担 当 者：小 林 克	時 期：縄文時代中期、後期、弥生時代

大岱Ⅱ遺跡の北側に位置する。現況は牧草地であり標高250～260mを測る。本遺跡では黄褐色土の地山面（鳥越火山灰層）の上位に灰褐色の大岱火山灰層が明瞭に観察された。検出された遺構は、縄文時代後期の竪穴住居跡5棟、フラスコ状ピット2基、土壌65基である。遺構外から出土した遺物は多種におよび、縄文時代前期から弥生時代の各時期の土器、石器を出土している。土器の中には北海道から波及して作られたと思われる後北C₂式土器も確認されている。

遺 跡 名：大岱Ⅳ遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字円川原 9 番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和58年 5 月16日～ 6 月22日	調査面積：925㎡
担 当 者：熊 谷 太 郎	時 期：縄文時代前期

かつて堀内川に注ぎ込んでいたと思われる沢筋の上方に位置する。調査区はその沢筋に面した斜面上に設定された。標高は210～227mを測る。斜面上部の平坦面から縄文時代前期の住居跡 2 棟と土壌 2 基が検出された他、斜面のうねりの凹部から多量の土器が検出され、土器の捨て場として利用されていたことが伺われた。遺物は復原可能な円筒下層各式の土器が約 110個出土し、それに伴う各種の石器が出土した。

遺 跡 名：円川原遺跡	所 在 地：鹿角郡小坂町小坂字大岱45番地他
事 業 名：東北縦貫自動車道建設工事	事業関係機関：日本道路公団仙台建設局
調査期間：昭和58年 9 月 5 日～ 9 月22日	調査面積：1,069㎡
担 当 者：永 瀬 福 男	時 期：縄文時代

東北縦貫道関係の遺跡では最も北に位置する。大岱Ⅲ遺跡の北側に隣接し、現況は大岱Ⅲ遺跡同様牧草地である。遺構の検出はなく、僅かに縄文時代後期の土器片と石器が数点出土したにとどまった。

遺 跡 名：案内Ⅳ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字案内89番地他
事 業 名：田山花輪線バイパス建設工事	事業関係機関：秋田県土木部鹿角土木事務所
調査期間：昭和58年 6 月 7 日～ 8 月19日	調査面積：2,100㎡
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代中～晩期、弥生時代、平安時代

案内Ⅴ、案内Ⅵ遺跡とともに、花輪盆地の米代川右岸の高位段丘面上に位置する。遺跡付近の現況はリング畑となっている。本遺跡からは縄文時代晩期の舟底形の土壌 1 基、平安時代の竪穴住居跡 4 棟が検出されている。遺物としては縄文時代中期、晩期末葉の土器、及び石器、平安時代の遺物を出土している。平安時代の竪穴住居の集中の度合から、舌状台地の東側が遺跡の中心をなすものと考えられた。

遺 跡 名：案内Ⅴ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字案内26番地他
事 業 名：田山花輪線バイパス建設工事	事業関係機関：秋田県土木部鹿角土木事務所
調査期間：昭和58年 4 月25日～ 6 月 3 日	調査面積： 900㎡
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代中～晩期、弥生時代、平安時代

案内Ⅳ遺跡の東側に位置する。昭和57年度の調査で2,070㎡を発掘したが、その残りの部分の調査が行われた。検出された遺構は縄文時代竪穴住居跡 1 棟、フラスコ状土壌 1 基、土壌16基である。遺物は縄文時代中期末～後期の土器を少量出土している。57年度の調査同様、比較的急な斜面を調査の対象としたが、斜面上にも住居跡が確認できた。

遺 跡 名：案内Ⅵ遺跡	所 在 地：鹿角市花輪字案内102番地他
事 業 名：田山花輪線バイパス工事	事業関係機関：秋田県土木部鹿角土木事務所
調査期間：昭和58年5月6日～7月21日、8月18日～9月30日	調査面積：5,200㎡
担 当 者：橋 本 高 史	時 期：縄文時代前～晩期、続縄文、平安時代

案内Ⅴ遺跡の東側に位置する。標高220～240m前後で案内Ⅵ遺跡からは40～60m程高い。現況は山林及び畑地である。検出された遺構は縄文時代竪穴住居跡7棟、フラスコ状ピット2基、Tピット1基である。出土した遺物は縄文時代前期初頭から晩期のものと続縄文時代のものである。殊に続縄文時代とされた遺物は北海道系の後北C₂ 式と呼ばれる土器で花輪地区で初出のもので特筆に値する。調査は南端部の極く一部の調査であり、北側の約70,000㎡に遺跡がひろがっている。

遺 跡 名：此掛沢Ⅱ遺跡	所 在 地：能代市浅内字此掛沢119他
事 業 名：国営能代開拓建設	事業関係機関：東北農政局能代開拓建設事業所
調査期間：昭和58年8月29日～11月4日	調査面積：1,682㎡
担 当 者：柴 田 陽一郎	時 期：旧石器時代、平安時代

米代川左岸の段丘上に位置する。標高はおよそ30mを測る。西方の日本海の汀線からは約3kmの地点である。検出された遺構は縄文時代のフラスコ状ピット1基と平安時代の竪穴住居跡1棟である。出土遺物は旧石器時代の石器、縄文時代後期の土器、および弥生時代の土器、平安時代の須恵器、土師器等である。うち旧石器時代の石器は、その総数が1,750点で、小形の楕円形剥片を素材とした米ヶ森型の台形石器が172点と多く認められている。

遺 跡 名：上の山Ⅱ遺跡	所 在 地：能代市浅内字上の山138番地他
事 業 名：国営能代開拓建設	事業関係機関：東北農政局能代開拓建設事務所
調査期間：昭和58年10月13日～12月3日	調査面積：2,645㎡
担 当 者：柴 田 陽一郎	時 期：平安時代

此掛沢Ⅱ遺跡の南側に隣接する。標高は此掛沢Ⅱ遺跡同様約30mである。検出された遺構は平安時代の竪穴住居跡20棟、掘立柱建物跡3棟、土壇22基等である。住居跡の中には1辺が9mを越える大形のものもあり、内部からは多量の炭化した遺材が検出された。遺構の中には火山灰がブロック状に堆積するものがあり、分析の結果、北朝鮮の白頭山起源の苦小牧火山灰であることが判明した。出土した遺物は土師器杯・甕・耳皿・鍋・鉢・壺・須恵器杯・甕壺・瓶などである。

遺 跡 名：三十刈Ⅰ遺跡	所 在 地：男鹿市五里合箱井字三十刈、是ヶ沢
事 業 名：県道バイパス建設工事	事業関係機関：秋田県土木部秋田土木事務所
調査期間：昭和58年6月1日～8月31日	調査面積：1,335㎡
担 当 者：児 玉 準	時 期：縄文・弥生・平安時代

遺跡は八郎潟の西岸から西へ約5.5kmの地点にある。遺跡の北西側の日本海の汀線からは0.7kmの距離にある。遺跡のある付近には、琴川銭神沢と是ヶ沢の二本の浸蝕谷が入り込む。調査区の標高はおよそ33m前後である。検出された遺構は縄文時代の竪穴住居跡5棟、フラスコ状ピット4基、弥生時代の土壇5基、平安時代の竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟等である。出土した遺物は縄文時代中期末の大木10式土器とそれに伴う石器、弥生時代の志藤沢式土器、平安時代の土師器等である。弥生時代の志藤沢式土器からは7個の靱痕が見つかり、平安時代の竪穴住居跡からは炭化米15粒が見つっている。

遺 跡 名：三十刈Ⅱ遺跡	所 在 地：男 鹿 市
事 業 名：県道バイパス建設工事	事業関係機関：秋田県土木部秋田土木事務所
調査期間：昭和58年 6 月 1 日～ 8 月31日	調査面積：2,733㎡
担 当 者：児 玉 準	時 期：縄文・平安時代

三十刈Ⅰ遺跡の南東に隣接する。標高は28m前後である。検出された遺構は、縄文時代フラスコ状ピット1基、平安時代竪穴住居跡8棟、土壇4基、掘立柱建物跡5棟などである。竪穴住居跡内からは、9世紀前半と推定される土師器を出土している。

遺 跡 名：風無台Ⅰ遺跡	所 在 地：南秋田郡河辺町松渚字風無台127他
事 業 名：臨空港七曲工業団地造成	事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課
調査期間：昭和58年 7 月 6 日～ 9 月21日	調査面積：8,200㎡
担 当 者：大 野 憲 司	時 期：弥生時代

七曲工業団地関連の諸遺跡は、雄物川の支流岩見川の中流左岸の台地上に位置する。岩見川の左岸には四段の段丘面があるが、遺跡は下位から二段目の新大張野面と呼ばれる段丘上に立地する。七曲臨空港工業団地造成の行われる台地上には風無台Ⅰ遺跡を含めて12ヶ所の遺跡があるが、今年度は4ヶ所の遺跡が調査された。風無台Ⅰ遺跡では縄文時代中期の竪穴住居跡1棟、後期の竪穴住居跡3棟、袋状土壇43基、Tピット3基を検出している。出土した遺物としては縄文時代中期～後期の土器、石器の他、旧石器時代のナイフ形石器、ブレード、石核等6,257点があげられる。

遺 跡 名：風無台Ⅱ遺跡	所 在 地：南秋田郡河辺町松渚字風無台110他
事 業 名：臨空港七曲工業団地造成工事	事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課
調査期間：昭和58年10月19日～11月15日	調査面積：7,000㎡
担 当 者：高 橋 忠 彦	時 期：旧石器時代・縄文時代

風無台Ⅰ遺跡の南西に隣接する。風無台Ⅰ遺跡との間に岩見川に注ぎ込む沢によって画されている。標高は約40m程である。検出された遺構は弥生時代の住居跡2棟、縄文時代晩期から弥生時代にかけての土壇35基である。遺物は縄文時代晩期から弥生時代にかけての土器および石器、また台形石器を含む1,286点の旧石器が出土している。

遺 跡 名：風無台Ⅴ遺跡	所 在 地：南秋田郡河辺町松渚字風無台72他
事 業 名：臨空港七曲工業団地造成工事	事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課
調査期間：昭和58年 8 月29日～ 9 月 5 日	調査面積：850㎡
担 当 者：高 橋 忠 彦	時 期：縄文時代

風無台Ⅰ遺跡の0.3km程南側に位置する。標高は43m程である。検出された遺構は、縄文時代中期の袋状土壇1基であり、同期の土器片を極く少量出土している。

遺 跡 名：餅田沢Ⅱ遺跡	所 在 地：南秋田郡河辺町松濶字餅田沢56他
事 業 名：臨空港七曲工業団地造成工事	事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課
調査期間：昭和58年9月18日	調査面積：8,500㎡
担 当 者：高 橋 忠 彦	時 期：縄文時代

餅田沢Ⅰ遺跡の南側に隣接する。標高は45～48m程である。検出された遺構は縄文時代の中期の竪穴住居跡4棟と土壇7基である。住居跡内から縄文時代中期末葉の土器と、それに伴う石器が出土している。

遺 跡 名：餅田沢Ⅰ遺跡	所 在 地：南秋田郡河辺町松濶字餅田沢58他
事 業 名：臨空港七曲工業団地造成工事	事業関係機関：秋田県商工労働部工業立地課
調査期間：昭和58年9月21日～10月19日	調査面積：6,000㎡
担 当 者：高 橋 忠 彦	時 期：弥生時代

風無台Ⅰ遺跡から直線距離にして0.5km程南東に位置する。標高は42m程である。検出された遺構は、縄文時代の袋状土壇3基である。遺物は縄文時代中期の土器片、石器片が極く少量出土している。

遺 跡 名：石名館遺跡	所 在 地：仙北郡六郷町六郷字石名館59、仙南村南町字石名館65
事 業 名：仙北平野農業水利事業上総川排水路工事	事業関係機関：東北農政局仙北平野農業水利事業所
調査期間：昭和58年2月21日～2月28日、9月16日～10月30日	調査面積：700㎡
担 当 者：桜 田 隆	時 期：縄文時代後期～晩期

六郷扇状地の先端部に位置する遺跡である。遺跡の基本層位は、第Ⅰ層…盛土、第Ⅱ層…黒褐色土、第Ⅲ層…青色土、第Ⅳ層…黒色土、第Ⅴ層…礫からなる。遺物は、第Ⅴ層の礫中から多量に出土している。縄文時代後晩期の土器、土師器、須恵器が共存しており、遺物の包含層である礫層は平安時代頃に上流から流れて堆積、形成されたものと考えられた。土器以外の出土遺物としては、縄文時代後期、晩期の石器や箸状の木製品などがある。

遺 跡 名：弘田柵跡	所 在 地：仙北郡仙北町弘田、千畑村本堂城廻
事 業 名：弘田柵跡学術調査	事業関係機関：秋田県弘田柵跡調査事務所
調査期間：昭和58年4月4日～11月4日	調査面積：2,018㎡
担 当 者：船 木 義 勝・山 崎 文 幸	時 期：平安時代

第53次、第54次および第49-2・3次の補足調査を含め、計3地区の調査を実施した。第53次発掘調査では政庁北西部が調査され、掘立柱建物跡8棟、門1棟、竪穴住居跡3棟、土壇31基、溝3条等を検出した。第54次発掘調査では、内郭南門東側の築地土塀造営に伴う基礎地業の調査を行なった。第49-2・3次発掘調査では、井戸跡1基とフラスコ状土壇1基および溝跡、敷石遺構などを検出した。「X解 申請借稲X」と判読できる第16号木簡が出土している。

(3) 研修事業

① 昭和58年度埋蔵文化財センター研修会

i) 日時 昭和58年12月7日(水)～12月8日(木)

ii) 内容 研修テーマ「遺構から見た古建築の復原」

第1日

- a 講義「発掘調査の準備と展開」-----副所長 岩見 誠夫
- b 事例発表「わが町の文化財保護――一丈木遺跡と復原家屋――」
-----千畑村公民館長 後松 州造
- c 講演「東北地方の縄文時代竪穴住居の変遷」
奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部遺構調査室長 宮本長二郎
- d 研究協議1「大形竪穴住居の復原と居住空間」-----永瀬 福男

第2日

- a 研究協議2「秋田県の縄文・弥生時代の竪穴住居」-----大野 憲司
児玉 準
- b 研究協議3「古代・中世の竪穴住居と掘立柱建物」-----熊谷 太郎
小林 克

昭和58年度の埋蔵文化財センター研修会は、遺跡の発掘調査によって得られる竪穴住居跡や掘立柱建物等の資料をもとにその復原を試みた講演・事例発表・研究協議が行われた。

後松氏からは、県内で唯一の実大家屋の復原された一丈木遺跡の住居復原の過程が、スライドの映写をもって紹介された。宮本氏からは、縄文時代の竪穴住居跡の復原と変遷過程が、住居内の柱穴数やその配置の分析結果から提示された。また、近年注目を集めている縄文時代の大形住居跡については、県内の杉沢台遺跡・萱刈沢遺跡の例の他、青森県の近野遺跡例等をもとに上屋構造の復原が試みられた。その他、縄文時代・弥生時代の県内遺跡から見つかった163棟の住居跡について集成が行われ、時期的な変遷の過程を辿る作業が試みられた。古代の掘立柱建物跡では、埋没家屋である胡桃館遺跡の家屋についてその復原が検討され、25棟の掘立柱建物跡が検出された中田面遺跡例については、柱穴位置の分析と時期別の竪穴棟数の変遷が確められた。また、144棟の竪穴住居跡が見つかった鹿角地域の古代の竪穴住居跡については、その規模や形態の分類、住居設計時の基本設計単位を求める作業が試みられた。

② 昭和58年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

i) 日時 昭和59年3月11日(日)

ii) 報告遺跡

a. 東北縦貫自動車道関係

小坂町 白長根館Ⅰ遺跡(縄文・平安時代)-----熊谷 太郎

小坂町 大岱Ⅱ遺跡(縄文時代)-----小林 克

b. 国営能代開拓建設事業関係

能代市 此掛沢遺跡(旧石器時代)-----柴田陽一郎

能代市 上の山Ⅱ遺跡(平安時代)-----柴田陽一郎

c. 臨空港七曲工業団地造成事業関係

河辺町 風無台Ⅰ遺跡(旧石器時代)----- } 大野 憲司

河辺町 風無台Ⅱ遺跡(旧石器時代)----- } 高橋 忠彦

d. 学術調査

仙北町 払田柵跡(古代)-----船木 義勝

e. 町村関連

五城目町 中山遺跡(縄文時代)-----高橋 忠彦

若美町 横長根A遺跡(弥生時代)-----児玉 準

調査資料紹介—能代市杉沢台遺跡の魚骨について—

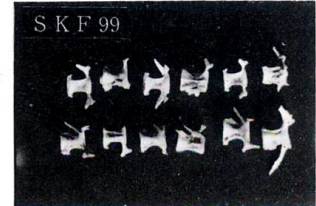
能代市磐の杉沢台遺跡の発掘調査は昭和55年度に実施されている。この度、調査の際採取したフラスコ状ピット貝層中からの魚骨について、国学院大学山崎京美氏の同定結果を得た。

S K F 08

- ニシン目 Clupeiformes fam. indet.
椎体
- サケ科 Salmonidae gen. et sp. indet.
椎体
- コイ科 Cyprinidae gen. et sp. indet.
咽頭歯
- サバ属(?) Scomber sp.
鰭棘、椎体
- スズキ目 Perciformes fam. indet.
角骨、椎体
- アイナメ属 Hexagrammos sp.
前上顎骨・左
- 鳥類 Class Aves
- 齧歯目 Rodentia fam. indet.
門歯
- 哺乳類 Class Mammalia



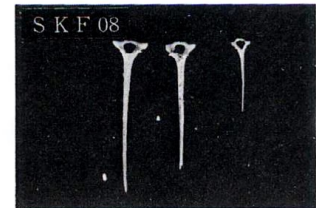
コイ科 咽頭歯



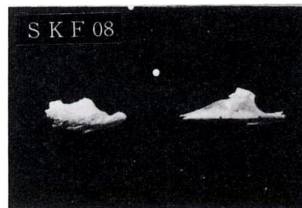
カタクチイワシ 椎体



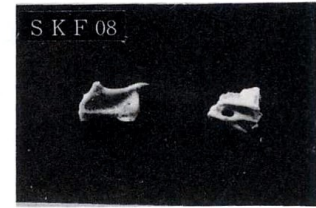
サバ属 左歯骨



サバ属? 鰭棘



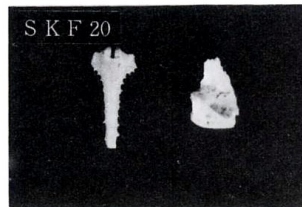
スズキ目 角骨



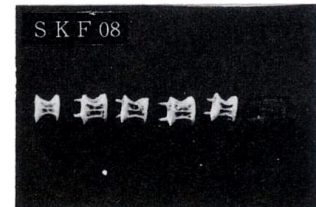
サバ属 尾椎

S K F 20

- サバ属 Scomber sp.
椎体、鰭棘
- スズキ亜目 Percoidae fam. indet.
椎体
- フグ科 Tetraodontidae gen. et sp. indet.
歯板
- フグ目 Tetraodontiformes fam. indet.
鰭棘



フグ目 鰭棘
歯板



ニシン目 腹椎

S K F 99

- カタクチイワシ Engraulis japonica
椎体
- サバ属 Scomber sp.
鰭棘
- スズキ亜目 Percoidae fam. indet.
椎体



アイナメ属 左前上顎骨



齧歯目 門歯

S K F 83

- スズキ亜目 Percoidae fam. indet.
椎体

S K F 98

- スズキ属 Lateolabrax sp.
方骨・右



哺乳類 歯

なお、以上の同定は暫定的なものであり、今後詳細な検討を要するものである。

2. 遺物保存処理施設とその工程

(1) 鉄器保存処理

現在埋文センターにある鉄器処理関係の機器は以下のとおりであり、既に妻の神Ⅰ遺跡（鹿角市）、はりま館遺跡（小坂町）、払田柵跡（仙北町）などから出土した鉄器を保存処理し、その一部は特別収蔵庫に展示している。

〈使用機器〉

真空ポンプ（ヤマト P D 51）

減圧樹脂含浸装置

エアーブラシュー

エアーコンプレッサー（日立 E F O U P）

送風定温乾燥器（ヤマト D K 62）

モニターパワーコントローラー

モニタースタンダードレッド

鉄器保存処理は奈良国立文化財研究所の指導をうけて、次のように行っている。

① 事前調査

材質の調査（蛍光X線分析）、構造の調査（X線透過写真）、埋蔵環境調査（サビの要因）、現状の記録（現状を写真撮影、実測）などを処理前に記録する。

② 保存計画

①の結果をもとに保存計画を作成し、遺物処理カードに記入する。

③ 脱塩処理

当センターではLiOH法により行っている。

a 脱水処理（1～2ヵ月）

メチルアルコール 1 ℓ

+

イソプロピルアルコール 1 ℓ

b 脱塩処理（2ヵ月）

メチルアルコール 1 ℓ

イソプロピルアルコール 1 ℓ +

エチルアルコール 2 ℓ

水酸化リチウム 40 g

c 乾 燥

12時間乾燥する。

定温乾燥器で乾燥する▶



④ 保存処理

鉄器が数枚に剥離している場合はエポキシ樹脂（アラルダイト G Y 1252 + アラルダイト H Y 837 + ガラスマイクロバルーン）で強化接合してからサビおとしをする。サビおとしは、大きめのサビをニッパーなどで切りとり、ハンディータイプグラインダーで削る。最後に細部をエアブラシューによりアルミパウダーをふきつけて削りおとす。

サビおとしが終わったら、減圧樹脂含浸装置を使い、鉄器に油性アクリルエマルジョン系合成樹脂を減圧含浸する圧力は30mmHgとしている。

減圧含浸が終了したら、送風定温乾燥器で乾燥させる。

サビおとし→減圧含浸 ▼エアブラシューでサビおとしをする。

→乾燥をさらに2回繰り返し、鉄器への樹脂含浸率を100%に近づける。

⑤ 接合・復原

折れた部分を接合し、欠けた部分にエポキシ樹脂（アラルダイト S V 426 + アラルダイト H Y 426）を充填する。

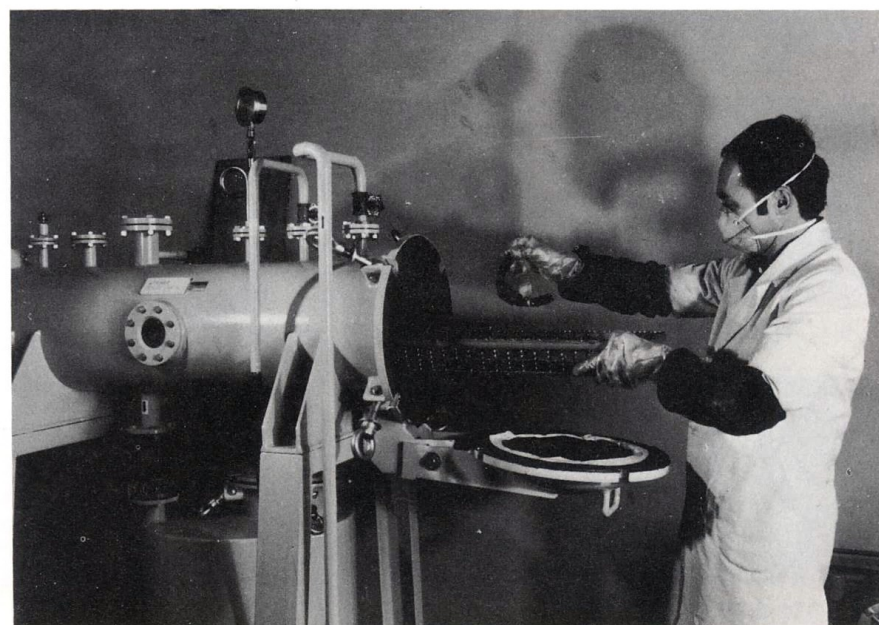
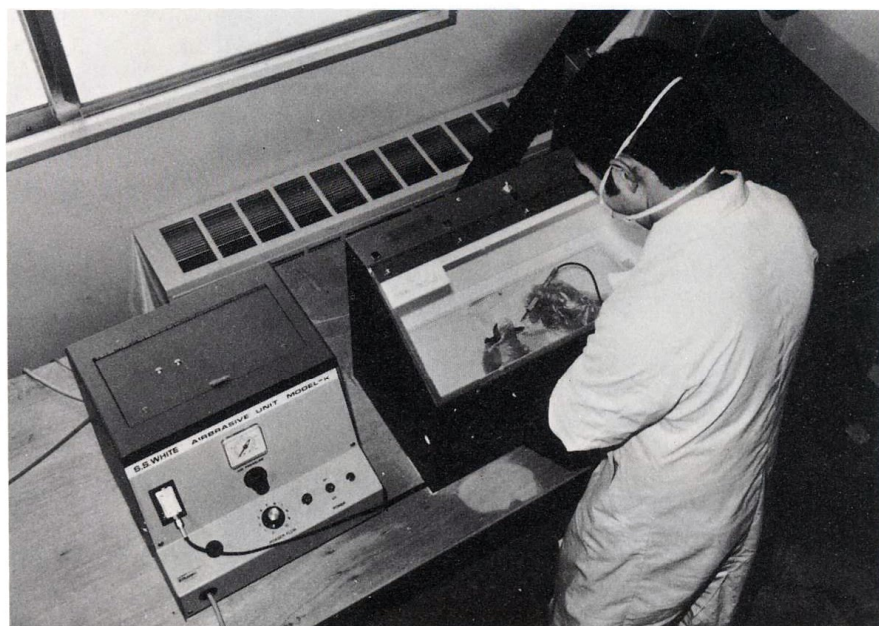
補色はアクリル合成樹脂をつなぎとして、日本画の顔料を用いる。

⑥ 保 管

保存処理の終わった鉄器は防錆紙（V P I 紙）に包み、シリカゲルと伴にビニールに密閉する。

以上の工程を行うためには4～5ヵ月が必要とされる。

樹脂減圧含浸する▶



(2) 木器保存処理

埋文センター内には容量 800 ℓ の大型の P E G 含浸装置があり、主に弘田柵跡から出土した柱根などを保存処理している。

〈使用機器〉

P E G (ポリエチレングリコール) 含浸装置 (P A170)

木器保存処理は以下のような方法がある。

○カリウム・ミョウバン法

○しょうのう法

○アルコール＝エーテル樹脂法……竹箆や編物などの植物質繊維加工品等の特殊遺物の保存処理に有効。

○真空凍結乾燥法……いわゆるフリーズドライ法で、木簡等に有効な保存処理である。

○P E G 含浸法……一般的な木器処理法であり、当センターで行っているのがこの方法。

① 事前調査

樹種鑑定、埋蔵環境の調査、現状の記録 (写真・実測) などを記録する。特に漆器の場合はうるしの分析、木取り方法、加工具などの調査も必要であり、木を組み合わせている櫛などについてはX線による透過写真も必要となる。

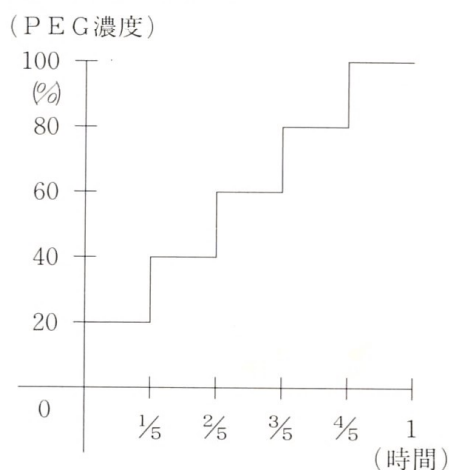
② 保存計画

①の結果をもとに、どの方法で木器保存処理するか決める。加工木製品、漆製品、籃胎漆器木簡などはそれに適した方法で行うよう留意する。

③ 保存処理 (以下はP E G 含浸法についてのみ述べる)

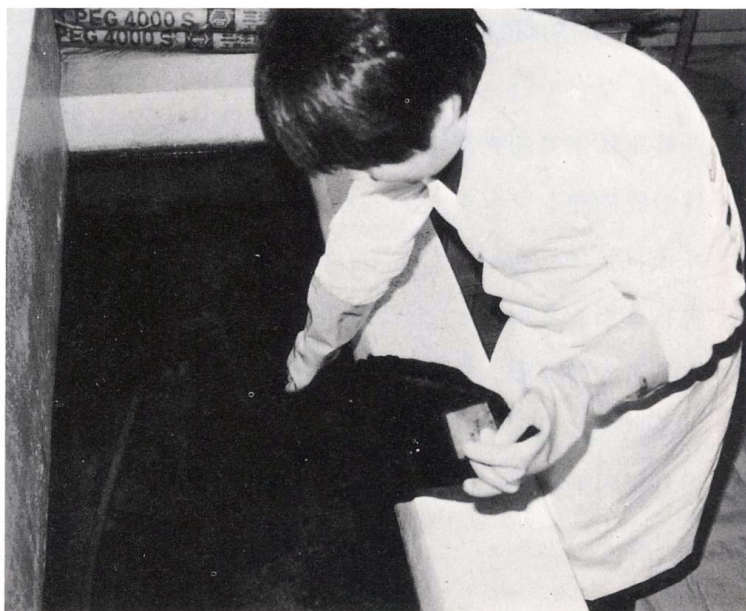
現場の泥などをよくおとし、清水につけてアクヌキをする。

〈濃度と時間の関係グラフ〉



遺物を水につけて

アクヌキする▶



PEG含浸装置に水を入れ液温を60～70℃としPEG4000を溶かして濃度を20%とし、遺物をひたす。PEG濃度は左下表のように5段階に上げていく。さらに濃度チェックを定期的に行う。100%になったらPEGを抜く。含浸時間は通常6ヵ月～1年を要する。



▲PEG含浸装置

PEG処理液は表面が黒色化するので、トリクロールエチレンで、表面をとかし木の地肌を出す。

④ 保 管

特に気をつけることはないが、PEGは水に溶解しやすいので、水に濡れないようにす。

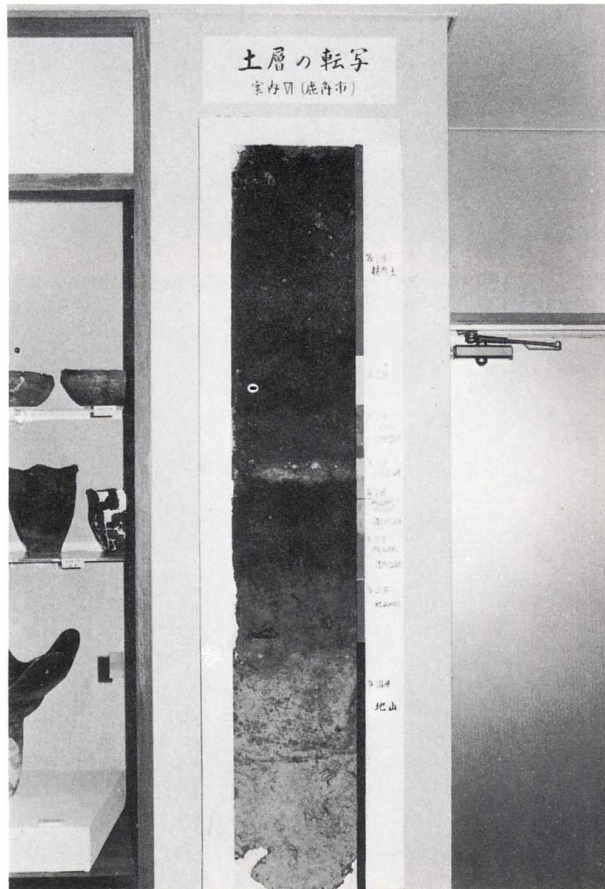
▼転写した土層

(3) 土層の転写

当センターでは土層の転写も行っており、遺構の堆積状態、火山灰などの研究資料として価値が高い。現在までに、案内Ⅵ遺跡（鹿角市）、大岱Ⅳ遺跡（小坂町）、土井遺跡（八森町）などで行っている。

転写は奈良国立文化財研究所で開発した特殊合成樹脂トマック+シンタロン+アラルダイトHY 837を用いて行う。これに寒冷紗で裏打ちし、さらにトマックを重ねぬりし剥ぎ取るものである。

前処理によって、砂礫層や湧水層でも剥ぎとりは可能なので、さらに一層の活用がのぞまれる。



3. センター日誌抄

昭和58年

- 4月4日 昭和58年度発掘調査開始。
- 4月21日 国立歴史民俗博物館岡田茂弘教授施設、資料視察。
- 5月31日 秋田県文化財保護協会総会、研修室で開催。
- 7月15日 文化庁仲野浩主任文化財調査官、弘田柵跡調査と整備指導。
- 7月20日 第18回弘田柵跡調査事務所顧問会議。
- 7月26日～28日 奈良国立文化財研究所宮本長二郎遺構調査室長、弘田柵跡調査指導。
- 7月30日 弘田柵跡現地説明会、県内外の参会研究者施設、資料視察。
- 7月31日 秋田県生涯教育センターコミュニティカレッジ「県南の遺跡と城柵」開講。
- 8月9日 県内教職員フィールドワーク、センターと弘田柵跡で開催。
- 8月25日 奈良県立橿原考古学研究所石野博信研究部長ほか施設、資料視察。
- 9月10日 山本郡八森町土井遺跡現地説明会。
- 9月22日 ㈲千葉県埋蔵文化財センター職員施設、資料視察。
- 10月3日 文化庁石田拓管理課長補佐、富沢広文文部事務官施設等視察。
- 11月1日 三重県斎宮跡調査事務所佐々木宣明所長、谷本鋭次主査施設、資料取察。
- 11月5日 鹿角郡小坂町で東北縦貫自動車道発掘調査報告会。
- 11月29日 宮城県多賀城跡調査研究所進藤秋輝研究第1科長、弘田柵跡調査指導。奈良国立文化財研究所光谷拓実技官施設、資料視察。
- 12月3日 昭和58年度発掘調査すべて完了。
- 12月6・7日 昭和58年度埋蔵文化財担当者研修会（研修テーマ「遺構から見た古建築の復原」）講師奈良国立文化財研究所宮本長二郎遺構調査室長。
- 12月12日 所員研修会「石器の石質鑑定について」講師県立博物館嵯峨二郎学芸主事。
- 12月14日 東北学院大学伊東信雄教授、資料調査。
- 12月15日 文化庁加藤允彦文化財調査官、施設視察。

昭和59年

- 1月31日 文化庁桑原滋郎文化財調査官資料視察、弘田柵跡調査指導。
- 2月9日 教育庁文化課との連絡協議会。
- 2月13日 北海道大学林兼作助教授資料視察。
- 2月22日 第19回弘田柵跡調査事務所顧問会議。
- 3月11日 昭和58年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会。

秋田県埋蔵文化財センター職員録

所 長	佐 藤 良太郎
副 所 長	岩 見 誠 夫
社会教育主事	永 瀬 福 男
学 芸 主 事	船 木 義 勝
社会教育主事	大 野 憲 司
社会教育主事	熊 谷 太 郎
文化財主事	桜 田 隆
文化財主事	柴 田 陽一郎
文化財主事	児 玉 準
文化財主事	高 橋 忠 彦
文化財主事	橋 本 高 史
文化財主事	小 林 克
主 事	佐 藤 健
主 事	山 崎 文 幸(仙北町教育委員会派遣職員)
臨 時 職 員	洪 谷 志

秋田県埋蔵文化財センター 年報 2
(昭和58年度)

昭和59年3月31日 刊行

刊 行 : 秋 田 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー
秋田県仙北郡仙北町弘田字牛嶋20番地
T E L 01876-9-3331

印 刷 : 秋田マイクロ写真印刷株式会社
秋 田 市 寺 内 字 蛭 根 85 番 69
T E L 0188-23-7161